

日本とドイツの若者による ハイブリッド・オンライン 交流ワークショップ

協同組合の役割と可能性の再考
—— 共に築く未来 ——



国連が定めた「2025年 国際協同組合理年」にあわせて、日本とドイツの若者がハイブリッド・オンラインによる交流ワークショップを開催します。

日本（兵庫県・大阪府北部地域）とドイツ・ラインラント＝プファルツ州ハム（ジーク）をつなぎ、両地域の若者が協同組合の理念を手がかりに、これからの社会のあり方について語り合います。



開催日時
2025年 11月12日 水
17:00～20:00（日本時間）

対象 18歳から25歳前後の若者

日本／神戸市および周辺地域在住の方

ドイツ／ハム（ジーク）および周辺地域在住の方

使用言語 日本語・ドイツ語
（同時通訳あり）

司会・進行 ベルリン日独センター

日本の会場 コープこうべ協同学苑（兵庫県三木市志染町青山7-1-4）

当日はJR住吉駅から送迎あり

参加申込・
詳細はこちら



協同組合の原点から 未来を考える

協同組合は、「自助」と「連帯」の考え方を大切にしながら、地域の課題に寄り添い、持続可能な社会づくりに取り組んできました。その背景には、ドイツと日本の協同組合の先駆者であるライフアイゼンと賀川豊彦の思いがあります。

このワークショップでは、そんな二人の理念を手がかりに、今を生きる若者たちが感じている不安や希望、そして社会とのつながりについて語り合い、それぞれが思い描く未来や、分かち合える価値観についても、みんなで一緒に考えていきます。



フリードリッヒ・ヴィルヘルム・
ライフアイゼン
(1818年~1888年)

ドイツ・ハム（ジーク）出身の地方行政官。農村の貧困に向き合い、住民の自助による信用協同組合を創設。「自助・自律・連帯」の理念を提唱し、協同組織金融の原型を築いた。その思想はヨーロッパ各地に広まり、今も多くの協同組合に影響を与えている。



賀川 豊彦
(1888年~1960年)

神戸市出身の社会運動家。キリスト教の精神に基づき、スラム街での救済活動から生活協同組合コープこうべの創設へとつながった。労働・農民・平和運動にも尽力し、「隣人愛」と「助け合い」の理念を広めた。著作活動を通じて社会改革を訴え、日本の協同組合運動の礎を築いた。



話し合う
テーマ

自分の将来像

協同組合などの
共同行動がもたらす
可能性

経済・環境・社会の
不安や課題

「社会的責任」
とは？

より良い未来への
取り組み

日本とドイツの
若者文化

プログラム内容

協同組合発祥の地・ハム（ジーク）と
コープこうべの紹介

専門家によるレクチャー
「協同組合の理念が伝えるものとは？」

日本とドイツの若者による
ディスカッション

アイデア・不安・ビジョンの共有

国際交流による新しい視点の獲得

